

CVMによるツシマヤマネコ保護増殖事業の経済価値評価の結果（概要）

1. 評価対象

ツシマヤマネコの個体数の増加（20年後までに約40頭の増加）

※基金への支払いにより、20年後の時点で野生のツシマヤマネコの生息数は現在よりも約40頭増加し、1980年代の生息数である約140頭まで回復すると仮定した。このシナリオは「ツシマヤマネコ保護増殖事業実施方針」の中期目標（2035年ごろまでに、1980年代の生息面積まで回復）に沿った内容である。

2. 評価手法

調査方法：Web アンケートによる仮想評価法（CVM）調査※

調査範囲：全国一律（地域、性別、年齢等の区切りなし）

本調査目標サンプル回収数：1,000 サンプル

本調査実施期間：2014年2月10日～2014年2月12日

※仮想評価法（仮想評価法、Contingent Valuation Method）

アンケート調査などにより、対象者が支払っても構わないと考える金額を尋ねることにより、対象となる環境の持つ価値を金額として評価する手法。回答者に環境改善のシナリオを示し、そのシナリオを実現することに対する支払意思を確認する。

3. 評価額の算出

支払意思額に評価範囲（受益範囲）である全国の世帯数（5,195万504世帯）を乗じて評価額を算出した。

評価対象	有効回答数※ ¹ ／回答数	支払意思額 (1世帯当たり年間※ ²)		評価額(年間)
		中央値※ ³	1,015 円	
ツシマヤマネコの個体数の増加の価値(20年後までに約40頭の増加)	801/1,040	中央値※ ³	1,015 円	約 527 億円
		平均値※ ⁴	2,790 円	約 1,449 億円

※¹ 有効回答数は、抵抗(温情)回答を除いた回答数

※² アンケートでは1世帯当たり10年間継続して支払うものとして質問した結果

※³ 統計的に Yes と No の回答が半々となる値。政策を事項する際に過半数の支持が得られるかどうかの境界値

※⁴ 統計的に算出した支払意思額の平均値

4. 留意事項

シナリオでの目標は20年後としている。しかし、支払期間が長期にわたると、回答者にとってもイメージが困難であると考えられるため、支払期間は10年としている。